

第13回京都山城便教会

平成 29 年 11 月 25 日 (土)

おばあちゃんからの贈り物

第 13 回京都山城便教会は、長岡京市立長岡中学校で実施しました。参加者は 2 名。その参加者の方から、手編みの掃除グッズをいただきました。聞くと佐賀に住まっていたおばあちゃんと一緒に暮らすことになり、「今度トイレ掃除に行く」と話されると、おばあちゃんがわざわざ編んでくれて、「これで金属のところとか、洗面台をこするとピカピカになるよ」と 20 個ほど持ってきてくださいました。

そこで、今回は人数も少ないので、予定を変更し、洗面台磨きに徹しました。



4本の指にはめ、洗面台をこすると、見る見るうちに水垢が取れていきます。さらにありがたいのは、手を守ってくれること。洗面台を掃除していると、つつい水道の蛇口にあたって、時には皮がめくれ、血を流すこともあるのですが、これをはめれば無敵。力を入れてこすって、蛇口にあたってもしっかり守ってくれるのです。さすが、がばいばあちゃん。

<Before>



<After>



おばあちゃんがくれた掃除グッズのおかげで、洗面台はピカピカ輝きだし、新品のような色になりました。人もそうですが、年月が経てば、色々な垢がつく。そういう垢を取り払うと、元通りに輝き出す。そんなことを感じさせる洗面台磨きでした。

洗面台が輝き出せば、今度は前のタイルが気になりだし、壁磨きへと移行。こちらには、水垢もついていましたが、おそらく絵の具を洗って飛び散った跡が、色々なところに残っていました。このタイルもおばあちゃんからもらったグッズとナイロンたわしで磨き続け、汚れが落ちていきました。実際に手で触るとよく分かるのですが、最初はザラザラした感触が、最後はツルツルに。こうやって見た目も触り心地もよくなって、これを見た生徒がどんな反応をするのかワクワクしてきました。

参加された先生も掃除を終えて「初心に戻る感じ」と言っておられました。掃除は、自分の体と心にこびりついたものを取り除く作業。さらに、今日は温かいお湯で流してもらったかのように、終わった後も心がホカホカした感じとなりました。



日頃から…

今日、交流会で使わせていただいた教室の担任の先生は、本当に素敵。そんなことも感じさせていただきました。聞くと、毎日生徒が帰った後に、使った雑巾を1枚1枚ていねいに洗い、使ったほうきについた綿ぼこりも指で取り除かれているとのこと。

掃除をすることも大切ですが、使用する掃除道具を大切に保管することはもっと大事。しかも、毎日。

教師の仕事が激務だと言われる中で、毎日このような活動をされている先生の姿勢に、頭が下がる思いでいっぱいになりました。

実際に掃除をしたのは2人でしたが、色んな人の思いがここに集まった、すごくあったかい第13回となりました。ありがとうございました。

(小笹大道)

